

## 6 底魚漁場調査

当真嗣誠、川崎一男、吉川一男

### 1 目的

フエダイ類を対象にする本県の本釣と底延縄漁業は、双方共通した漁場関係をもつため操業海域は沖合へ移行拡大されつつある。このような操業形態に呼応するための漁場調査である。

### 2 調査の方法、内容

回次	調査船	屯数馬力	調査期間	調査海域	調査員
1	図南丸	216.09トン 1,000PS	52年 9.29～10.11	先島列島	当真、吉川
2	"	"	53年 3.2～3.10	大東島東方海域	当真、川崎

### 調査項目

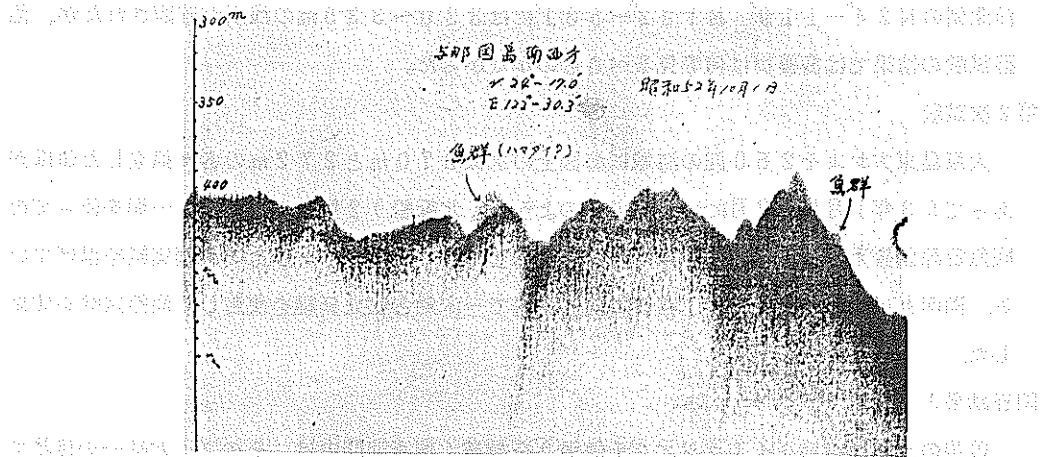
- ア 魚探機での海底海山調査
- イ 漁獲試験（釣獲率、魚種組成）
- ウ 漁獲物調査（体長、体重）
- エ 気象、海象の調査

### 3 調査結果の概要

#### 第1次試験

与那国島南西方およそ24哩のN24-17.8、E122-31.7の地点は昭和38年6月13日に当水試図南丸が発見した曾根である（昭和38年報告済）この曾根は当時ハマダイを主体とする釣獲率は1日当り平均最高28%を示し優秀な漁場であった。処がこの一帯の海域は黒潮流軸の真只中に当り潮流が速いことで地元漁業者には余り利用されてなかった。それから10数年後の今日本県の沿岸漁業は漁場が沖合へ移行拡大されつつあり、このような実態を勘案しての再調査であったが全く予期しなかった台湾の珊瑚漁船（9隻）が船団を組んで同曾根上で過密にサンゴ網を曳網して操業しており、図南丸は彼等のサンゴ網を避ける様にして延縄の試験操業を実施したがサンゴ網漁具に我が方の漁具を引掛けられ延縄2針損失するトラブルも起った。結局釣漁業は全く不可能な状態となり、止むなく魚探機で曾根の周辺を調査した。結果は曾根の一角に底魚群の稍に濃密な魚影像が記録された（別添記録図）今次調査では台湾漁船に占拠された形となり充分なる調査研究は出来なかつたけれども魚探機で魚群探索が出来たことはそれなりの収穫があったと思う。この様な魚探反応から判断する限り底魚漁場としての価値は今なお維持されており、その真価をもう一度確かめる必要がある。

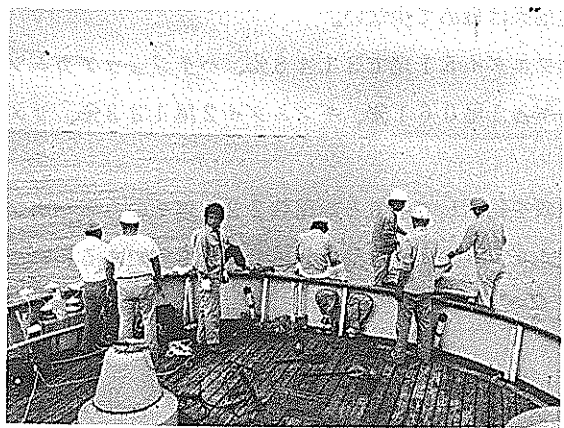
与那国の南々西およそ15哩附近に海図上1,082mの水深が記載されているがその僅か0.3



魚群探知機 記録写真



台湾漁船のサンゴ漁業操業風景  
与那国島南西方 N 24°-178' 附近  
E 122°-317'



同じ會根で図南丸と台湾漁船の操業状況

渚北側のN 24°-1 1.9' E 122°-5 3.1'には320~335mの浅所が確認されたが、漁獲試験の結果では漁獲物は何等見るべきものがなかった。

## 第2次試験

大東島東方およそ250mの渚の海域に海図上の水深270mと272mの各々孤立した魚礁があって53年1月から2月にかけて水産庁のよう船(北転船)2隻によってトロー網を使つての底魚資源調査が行われ、その成果として両方の曾根から100トン以上の漁獲実績を揚げている。凶南丸は北転船の調査終了直後に同じ漁場で一本釣と底立延縄を使用して漁獲試験を実施した。

## 調査結果と方法

曾根の頂上に標識ブイ(ラジオブイ併用)を設置(調査期間中は、そのブイが唯一の目標であり、同時に礁上の位置確認をするうえでも大変効果があった。

調査に供した漁具は手動式一本釣、電動式一本釣、底立延縄でそのうち当漁場で最も効果的だった漁具は底立延縄であった。

### 北側の曾根N 26°-4 5' E 135°-2 5'

海図では水深270mと記載されているが凶南丸での調査結果は最浅部が320mで曾根の頂上は平坦状となり岩礁と推察される。一本釣で操業8回、使用釣針80本漁獲尾数4尾、釣獲率は5%、魚種組成はハナフェダイ3尾で75%、サメ1尾で25%である。

底立延縄では操業4回使用釣針600本漁獲尾数56尾で釣獲率9.33%を示した。

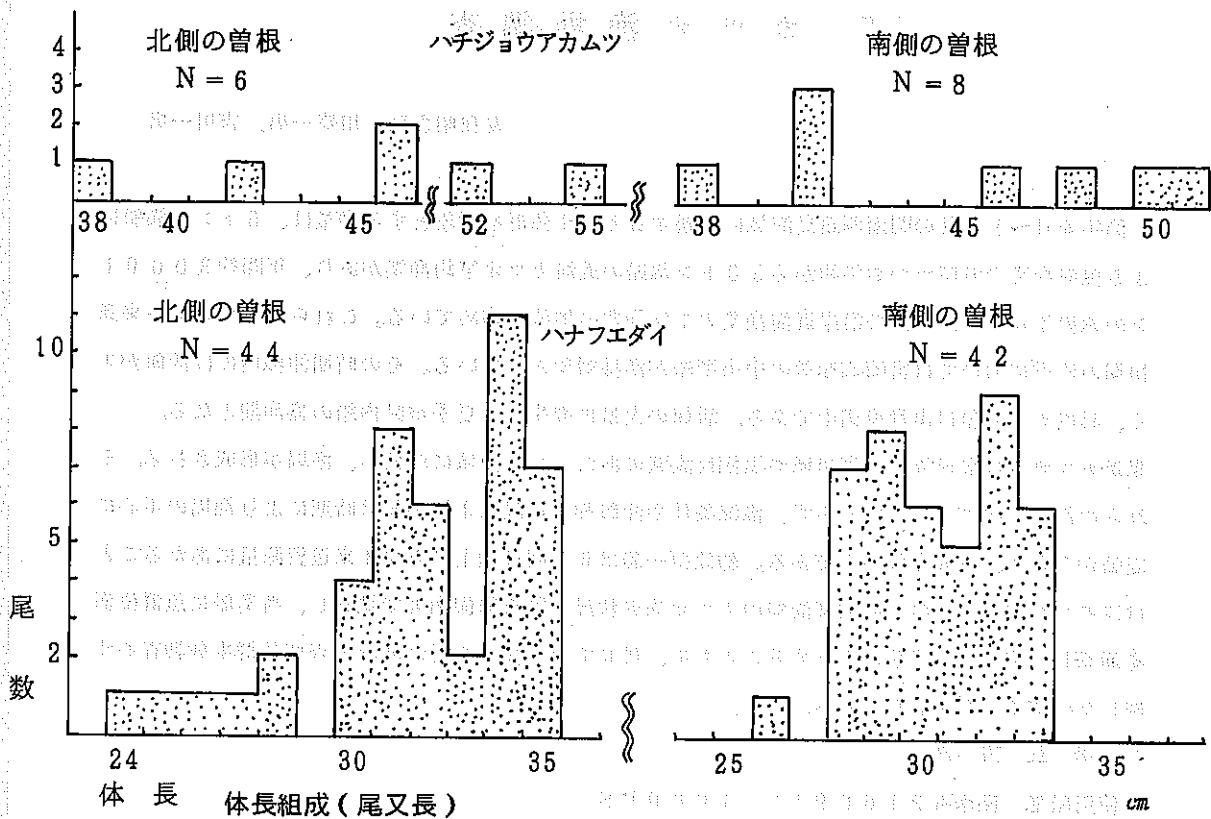
魚種組成はハナフェダイ49尾で87.5%、ハチジョウアカムツ6尾10.7%、ハマダイ1尾1.78%である。

### 南側の曾根N 26°-1 4' E 135°-4 7'

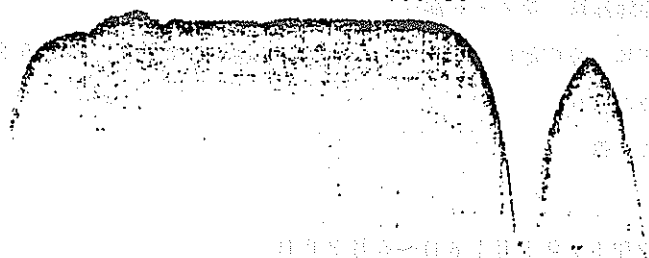
北側の曾根と同じ様な形状をしているが水深は少々深く最浅部が350を観測した。一本釣で3回操業したが漁獲物は何ら見るべきものがなかった。底立延縄では操業8回使用釣針1,120本漁獲尾数162尾釣獲率は14.46%でやや高率を示しているが、その主体がサメとハナフェダイのため漁業効果は極めて少ない。

魚種組成はハナフェダイ51尾で31.48%、ハチジョウアカムツ8尾の4.93%、ハマダイ、チカメキントキ各1尾0.61%、ギンメダイ2尾1.23%、サメ98尾で60.49%である。

両漁場の魚種組成を総括してみると総尾数221尾のうちハナフェダイ103尾で46.60%、サメ99尾で44.79%、その他19尾で8.59%である。



曽根の魚探記録 北側の曽根 N 26°-45' 附近  
E 135°-25'



曽根の魚探記録 南側の曽根 N 26°-14' 附近  
E 135°-47'

